2022
3
No.716
令和4年3月1日

広報 かるいざわ

特集 「あたま」も「からだ」も元気に長生き！
軽井沢健診を受診してみませんか

主な内容

成年年齢が18歳に引き下げられます …… P4
家計急変世帯等に対する臨時特別給付金のご案内 …… P5
軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議委員を募集します！ … P6
教育委員会だより …… P22

新型コロナウイルスの感染状況等により、記事中のイベント等が中止や延期になる場合があります。

毎月1日発行　軽井沢町　〒389-0192　☎0267-45-8111　ファックス 46-3165
ホームページアドレス　https://www.town.karuizawa.lg.jp/

軽井沢病院からのお知らせ

《病院職員募集》

●令和4年4月1日採用
正職員を募集しています

募集職種 看護師
募集人員 若干名
募集要件 資格を有する方
募集期限 3月10日㈭まで
※その他詳しい条件等については、問い合わせてください。

●随時採用
【会計年度任用職員】

募集職種 診療放射線技師
看護師・看護助手
（介護福祉士、介護職員初任者研修修了者またはヘルパー2級資格取得者）
募集人員 各若干名
募集要件 各資格を有する方
※診療放射線技師は平日・土休日の待機勤務のできる方
募集期限 3月10日㈭まで
休暇 任用期間に応じて20日の有給休暇の付与があります。
給料（月額）
・診療放射線技師（短大3卒）
188、500円から
・看護師
204、900円から
219、700円まで
・看護助手
151、500円から
189、300円まで
各種手当
通勤手当、時間外勤務手当、期末手当、退職手当（対象条件あり）、特殊勤務手当
※配属先により勤務時間が異なります。
※その他詳しい条件等については、問い合わせてください。

【問い合わせ】
軽井沢病院 ☎45-5111

稲葉先生のおはなし⑱

医芸一魂

あなたにとって、元気になったり、気持ちが切り替わったり、自分の「いのち」が活性する体験はないでしょうか。食事や旅行、そして音楽や芸術の体験がひとつの例ですが、わたしにとって、それは医療的な体験に思えます。わたしは医術と芸術とを一体の概念として受け止めてきました（医芸一魂）。それは、体と心を一体のものとして受け止めてきた（身心一如）ことと同じです。わたしたちの心の働きには、自と他を分離・切断する働きもありますが、同時に自と他をつなげ、融合させる働きもあります。わたしは、心の分離する働きよりも、心の融合する働きこそを大切にしています。

いのちの営みにおいて、医学だけではなく、文化や芸術の力が必要だとすると、それはなぜなのでしょうか。

この世の理屈を超えた、異なった理（ことわり）を持つ世界を「異界」と呼びます。人は、苦しいときにこそ、超越的な世界である「異界」へのまなざしが開かれやすく、「病」や「死」に瀕して常識が壊れたとき、ぽっかりと「異界」が顔を出します。人は死の影を感じることで、反作用のようにして生の力も生まれ、いのちの力が呼びさまされます。芸術はこうした「異界」の門を開け閉めし橋渡しする役割があります。それは身心を治癒する医療とは次元が違い、魂の世界と呼ばれてきた場所です。異界でこの世を超えた体験をして「力」を受け取り、この世界へと帰還するプロセスは、失われた「力」を取り戻す魂の体験とでも呼べるものです。神話や昔話など物語にはこうしたモチーフが多いことにも注目する必要があります。

わたしたちは誰もが子供から大人になり、その移行期である思春期に、「自分もいつか死ぬのだ」という「死の概念」と最初に出会います。死の視点から生を見る不安定な時期です。「死」という謎（であり真実）を一身に引き受けるこの時期には、色々な形で死のイメージがつきまといます。そもそも、子供から大人になるプロセスが、子ども時代の死と再生体験であり、異界体験と呼べるものです。その時に、死に飲み込まれず、死と切れるのでもなく、死と適切につながることで、わたしたちはリアルな生を生きることができます。日常の中にも死を感じ続けることができる強さを育む必要があります。

無意識からのメッセージをいかに創造的な生き方へと発展させていくかに、治療の根本はあります。体はまさに無意識の海そのものです。そのためには、無意識のなかに闇だけではなく光を発見し、無意識の破壊的な側面だけではなく創造的な側面を発見する必要があります。無意識に蓄えられているエネルギーを意識の世界へと適切に伝えるために、イメージや音楽の力が必要であり、それこそが文化や芸術の力です。

芸術と医術とを異なるものと考えることもできますが、一体のものとして考えることもできるはずです。そのためには、自分自身の過去の体験へ、原郷の森という「異界」に分け入る行為こそが、自己創造し自己治療していた「あなた自身」を取り戻します。それは、生きること、そのものです。

医療だけではなくあらゆる文化も「失われた全体性を取り戻す営み」だと思うのです。社会システムが更新されている現在、個人も社会も、いのちのバランスを失ったときには、いのちの全体性を取り戻す場が必要です。それは病院に限定する必要はなく、もっと広く自由に発想してもいいと思います。軽井沢町が「屋根のない病院」と呼ばれていたように、信頼し合い協力しあう必要があります。

軽井沢を守り、育ててきたすべての先人に深い敬意を抱きます。人の思いは形となり、時を越えて軽井沢を形づくりました。いのちは形を変えて今も生きています。未来を見据えた先人の思いを受け継ぎ、自分も「屋根のない病院」に貢献できればと、思います。

（今号で連載は最終回です。お読みいただき、ありがとうございました。）

軽井沢病院 副院長 稲葉 俊郎

長野県小児救急電話相談 ＃8000
＃8000でかからない時は ☎0263-34-8000